

政策評価調書(21年度実績)

政策名	地域と世界をつなぎふれあい楽しむツーリズムの推進		政策の目的等 個性豊かな大分の地域資源に磨きをかけ、多くの県民が自信、誇り、愛着を持てる魅力ある地域づくりと、地域に活力や競争力を生み出す国際交流の推進により、国内外から訪れる人と地域住民がふれあい楽しむツーリズムをめざす。	主管部局名 企画振興部
	政策コード	IV-1		
担当課室名 観光・地域振興局				

【政策を取り巻く社会経済情勢】

今後の動向	高速道路の低料金化等に伴い、団体旅行から個人旅行へのシフトや、移動エリアの拡大など、観光スタイルが大きく変化する中、地域にある資源を見つめ直し、磨き上げて地域の魅力を高めていくことが求められている。 グリーンツーリズムや地産地消、スローフード運動など、NPOや地域住民などの自主的・主体的な活動に対して、行政が連携・協働していくことが求められている。 経済発展やビザの解禁・免除により、今後拡大が見込まれる中国や韓国、台湾その他の東アジア地域など、国内外からツーリズム客を誘致することが求められている。特に、平成21年7月に個人旅行ビザが解禁され、増加が期待される中国人個人旅行客(FIT)の誘致や受入れ態勢の整備が喫緊の課題となっている。 国の施策(「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」平成20年法律第39号)に呼応し、複数の観光地や滞在拠点等が連携した広域周遊や2泊3日以上の滞在型観光を推進することが求められている。 経済のグローバル化や海外との交流機会の増加に対応して、地域に活力や競争力を生み出すため、地理的、歴史的、経済的に関係の深い中国、韓国と、経済・観光・文化・教育など多くの分野で連携を強化し、アジアとの交流拠点づくりを進めていくことが重要である。 県内の留学生数は4,147名を数え、人口比では全国第1位の留学生大県となっていることから、留学生の受け入れ環境の整備と留学生の能力を生かした地域づくりが求められている。

【政策を構成する施策の評価結果】

施策名	評価結果		政策との 関連度
	業績評価	主管部局評価	
1 観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進	概ね達成	現状維持	◎
2 地域を活性化する国際交流の推進	達成	現状維持	◎

【構成する施策に対する意見・提言】

[安心・活力・発展プラン2005推進委員会における意見・提言]	[県政モニターからの意見・提言]
	○これからPTAはコミュニティを加えた「PTCA」に移行すると思う。イモリ谷苦楽分では、校区の活動を上げるために、地元小学校の応援団になっている。
	○行政は、新規や異業種、都会のターン組などの参入者が、地域に入っていきやすい仕組みづくりや橋渡しなどをすべき。
	○自分の町を誇れる子どもたちがどれだけいるか、そういう子どもたちをいかに育てるかという視点が大事。いろんな運動を通じて次世代リーダーの育成に積極的に取り組む活動をもう少し県下全域に広めるような雰囲気づくりやPRが必要。
	○ブランド化というのは根気強くPRすることが大事で、知られてないのは存在しないのと同じ。例えばホームページではエントランスの部分を工夫するなど、外から見てもらうという観点から情報発信のあり方を考える必要がある。
	○東京から経済的な恩恵を受けている東北地方に対抗して、「関西の元気をもうう九州」という位置づけも必要。例えば温泉にしても、ただ温泉が出ているというだけでは駄目で、温泉の特長を大事にし、一生懸命に掃除して湯加減もよく見るというようなおもてなしの気持ちがイメージアップにつながると思う。
	○環境に対する意識の変化に応じて、レンタカーにハイブリッド車を導入したり、公共交通の利用を促すなど、「環境に配慮した観光地」といった概念がこれから大切になる。
	○九州新幹線開通に対しては、ゆっくりとした時間を過ごせたり、珍しい電車を走らせるなど、対極のものを用意し、その中で大分の魅力をアピールしてはどうか。
	○観光地のきれいなイメージづくりのためには、住民自らが草刈り等の景観維持に取り組まなければならぬのではないか。
	○日本語を教えるボランティアなどを募集することにより、海外からの留学生の情報格差を埋めることが可能になるのではないか。